

第61回NGKスパークプラグ杯 鈴鹿サンデーロードレース最終戦 参戦報告書

**最終戦、伝統の“NGKスパークプラグ杯”でTeam HRS勢が大活躍!!
3名のアドバンスコース生が全員表彰台に登壇し、有終の美を飾る**

11月8日(土) 公式予選 / 9:20~9:40 天候・路面: Fine / Dry

#56 富樫虎太郎 2'18.686 / ポールポジション

#51 長谷川蒼馬 2'19.972 / 2番手

#19 戸高綸太郎 2'19.978 / 3番手

“NGKスパークプラグ杯”の名で知られる鈴鹿サンデーロードレース最終戦。金曜のフリー走行では#56富樫虎太郎が2分19秒619を記録。#51長谷川蒼馬、#19戸高綸太郎も21秒台を出すなど、ウィーク初日から3名とも好調な走りをみせた。

その状況で迎えた公式予選、この日は朝から快晴模様。気温もこの時期としては暖かく、風もほぼ止んでいて、ベストタイムを狙うには絶好のコンディションだ。午前9時20分、20分間の予選セッションがスタート。前日に2分19秒台を記録している富樫はセッション序盤から積極的に前に出て単独でアタック。序盤から早々と19秒台に入れてきた富樫はその後19秒台でラップを続け、6周目には2'18.686という圧倒的なタイムを叩き出すことに成功。このタイムは自身が記録したレコードタイムを約0.7秒上回るナショナルクラスのニューレコードで、チャレンジクラスのレコードをもブレイク。

戸高も3周目に自身のベストタイムを大幅に上回る2'19.978を記録。さらに最終ラップ、前日のフリー走行で富樫に次ぐタイムを記録していた長谷川が、戸高のタイムをわずか6/1000秒上回る2'19.972を記録!! 20秒を切ったライダーは富樫、長谷川、戸高以外におらず、Team HRSの3名がフロントローを独占することになった。



 TAICHI

 Arai

 EARPEACE

 EIKO
Glory of Karting

 EXCEL
Motorsport

 NGK
SPARK PLUGS

 ENDLESS
Challenge to the Future

 HEDC
BATTERY

 FUSION

 Sabelt

 CCI

 SHIBA LINING JAPAN
advanced technology products

 ThreeBond

 DUNLOP

 TODA
RACING

 IONY/KARL
TEL. 025-721-2311

 TORAY
Toray Carbon Magic

 YAMAHA

 BRIDGESTONE

 PETRONAS
Syntium

 hit-air
HEAT SHIELDING SYSTEM

 mooncraft

 rizoma

 WAKOS

[50音順]

2025年鈴鹿サンデーロードレース最終戦 参戦報告書

11月9日(日) 決勝レース(フルコース8周) 天候・路面: Rain / Wet

#51 長谷川蒼馬・総合1位 / ナショナル1位 / NSFチャレンジ1位

#19 戸高綸太郎・総合2位 / インター1位 / NSFチャレンジ2位

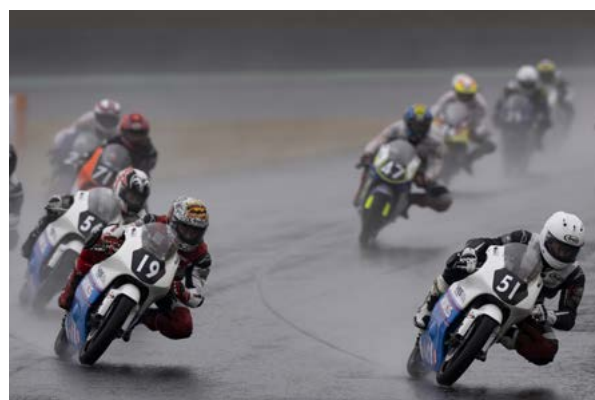
#56 富樫虎太郎・総合4位 / ナショナル2位 / NSFチャレンジ3位

快晴模様の予選とは打って変わりこの日は朝から雨模様。レースはウェット宣言が出され、2周減算の8周でレースが行われた。

ヘビーレインとなったコンディションの中、好スタートを決めたのは予選3番手の戸高。その背後に長谷川、そして富樫の順で1コーナーになだれ込む。長谷川はその直後、S字で戸高をパスしてトップに浮上。戸高も長谷川に食らいつき、この2台がレースをリードする。富樫は2台からやや後れを取り、MCシケインでは4番手にドロップしてしまう。

長谷川は2周目以降も積極的にプッシュ。戸高も長谷川を追走し、優勝争いはこの2台に絞られる。両名は2分37秒台のタイムで後続をさらに引き離すが、長谷川は戸高にも1秒ほどの差をつける。だがレースが終盤に差し掛かるころ、戸高はここまでのファーステストとなる2分36秒台に入れて長谷川に急接近。そして7周目の1コーナーで長谷川のインに飛び込んでトップに立つ。だが長谷川も戸高の背後にピタリとつけ、200Rではトップを奪い返す。その後方、富樫はペースを上げられずに5番手にポジションを落としてしまうが、7周目には再び4番手にポジションを戻した。

最終ラップ、トップに立った長谷川はスパートをかけて戸高を引き離す。長谷川はファーステストラップを更新する走りでも戸高に1秒以上もの差をつけて総合優勝を飾った。2位でフィニッシュした戸高はインタークラス1位となり、同クラスのチャンピオンが確定した。また4番手でゴールした富樫はナショナルクラス2位となり、こちらもシリーズチャンピオンに輝いた。同時にタイトルがかかっていた「HRC NSF250R Challengeダンロップ杯グランドチャンピオンシップ」では、1位～3位を順に長谷川、戸高、富樫の3人が独占した。



インタークラス表彰 (1位・中央) 戸高 綸太郎



ナショナルクラス表彰(1位・中央) 長谷川 蒼馬 (2位) 富樫 虎太郎



HRC NSF250R Challengeでは3人が表彰台を独占した



2025年鈴鹿サンデーロードレース最終戦 参戦報告書



ナショナルJ-GP3クラス:決勝総合1位(ナショナル1位/NSFチャレンジ1位)◎予選2位

長谷川 蒼馬(はせがわ そうま) 15歳

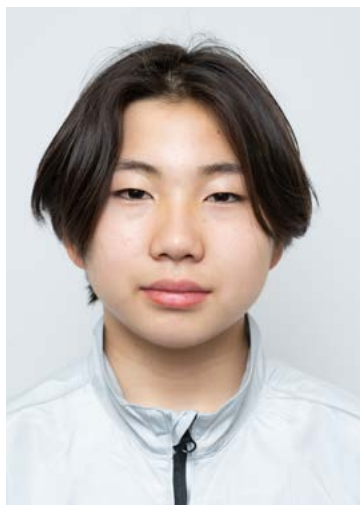
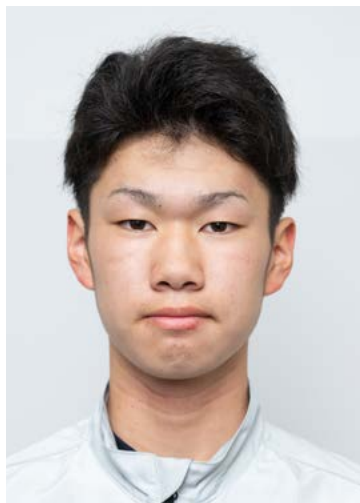
『予選では2周目くらいに戸高選手と富樫選手が19秒台を出していましたが、僕は20秒くらいで、なかなかタイムが伸ばせませんでした。残りラップが少なくなってきて、ラスト2周をとにかく集中して走り、ラストラップで自己ベストとなる19秒台が出せました。今年の目標が19秒台に入れることでしたのでうれしかったです。今日の決勝は雨でしたが、前回雨の全日本戦に参戦してクラス優勝しているのでさほど不安はありませんでした。レース終盤にいちど戸高選手に抜かれましたが、西コースは僕のほうが速いと分かっていたので、東コースでのペースを上げ、最終ラップにはファステストを出して戸高選手を引き離すことができました。ドライでの総合優勝は正直厳しいと思っていましたが、雨なら可能性があると感じていました。今期のはじめは、雨の走行前は心臓が飛び出るほど緊張していましたが、前回の全日本戦、そして今回のサンデー最終戦ではさほど緊張することはありませんでした。レインをチャンスととらえられるようになったのは19秒台を出したことよりも大きな成長だと感じています。』

今年の初めはベーシックコースで学んだことを、フルコースでは全く生かすことができませんでした。ですが先生方は、出来ていないことはハッキリと出来てないと言ってくれましたし、出来ていること、出来るようになったことも指摘してくれたので、どこをどのように修正していけばいいのかがとてもわかりやすく、成長にもつながりました。先生方には感謝したいと思います』

インターJ-GP3クラス:決勝総合2位(インター1位/NSFチャレンジ2位)◎予選3位

戸高 綸太郎(とだかりんたろう) 15歳

『今シーズンは序盤から苦戦するレースが多かったんですが、今回の最終戦は、予選で自己ベストも出せて、調子は良かったです。全日本の最終戦は雨で今回も雨のレースでした。もともと雨に苦手意識を持っていて、全日本戦では(特別参戦枠の)長谷川選手に離されてしまいました。ですが今回のレースは、結局は負けてしまいましたが、なんとか長谷川選手についていくことができました。少しだけ雨の走らせ方が理解できたと思います。シーズン序盤、レインコンディションでは昨年のほうがタイムが出ていましたが、シーズンを通して少しずつ克服できました。ドライでも去年のタイムを更新できずにいましたが、今期はサンデーロードレースだけではなく全日本戦も走ったので、技術的な成長はできたと思います。鈴鹿サーキットに関しては、S字での走りは昨年とは大きく改善しています。バイクを曲げる際のリアへの荷重のかけかたなどもHRS Motoのアドバンスコースですごく学べたと思いますし、先生方の指導もとても的確でした。今後も目標のMoto GP™に向けて一歩ずつ進んでいきたいと思います。あらためて鈴鹿サンデーロードレースを走らせてくださったTeam HRSと家族、サポートしてくださった方々に感謝したいです』



2025年鈴鹿サンデーロードレース最終戦 参戦報告書



ナショナルJ-GP3クラス:決勝総合1位(ナショナル1位/NSFチャレンジ1位) ◎予選6位

富樫 虎太郎(とがし こたろう) 14歳

『ドライの予選では目標としていた18秒台が出せました。レコードタイムはスリップを使っていますが、最終ラップに出した18秒台は単独で出していて、自信につながりました。今日のレースは雨でしたが、雨の全日本最終戦からさほど時間もたっておらず、自分自身の課題も理解できていたので、もっとトライしたかったんですが、ポイントランキングも無視できませんでした。雨の練習機会は少ないので、もっと積極的になるべきでした。長谷川選手、戸高選手は自分よりも速かったし、マシンセットも大きく違ってはいないので、結局問題は自分自身にあるということです。この点に関しては、オフシーズンの課題としたいです。この他、HRS Motoではライディングスキルに関することはもちろんですが、自分でタイヤ交換や給油、マシンのチェックなども学びました。こういった作業は、今まで自分ではやっていませんでしたので、今後に向けてとても勉強になりました。これらはセッティングを詰める際にも役立つと思いますし、バイクの特性をより理解することができました。先生方やメカニックの方々には感謝したいですし、スクールに入校させてくれた両親にも感謝です。来期はATCを走りますが、さらに上を目指すために、あらためて普段のバイクとの付き合い方をしっかりと考えていきたいです。そして、例えば学生生活とレース活動をメリハリを持って切り分けられるようにもなりたいです。目標とするMoto GP™でも、こういったメリハリはとても重要になると思うので、習慣づけていきたいです。自分の走りに関しても、周りの意見を取り入れて、動画もしっかりと確認してさらに磨き上げたいです。そしてコミュニケーション能力、特に英語を勉強したいです』



2025年鈴鹿サンデーロードレース最終戦 参戦報告書



岡田 忠之Principal

『今回は3名とも表彰台に登ることができました。予選でも全員が目標のタイムを記録しており、特に富樫はラップレコードを更新し、こちらを驚かせるほどの走りを見せてくれました。(富樫が来期参戦する)アジアタレントカップ(ATC)でもしっかりと戦えると思いますし、そこまでの走りができるまで大きく成長してくれました。ATCではHRSの先輩の古里太陽のように全戦優勝し飛び級でMoto3に行けるくらいのインパクトのある走りを見せてほしいです。また今回は長谷川が総合優勝していますが、特別枠で参戦した雨の全日本ロードレース最終戦を経験し、雨への苦手意識は克服できたのではないかと思います。同様に戸高も雨が苦手でしたが、今回は長谷川にしっかりと食らいついていて、やはり苦手意識を払拭できたようです。戸高はベシック生からスタートして、HRSで5年間トレーニングしていますが、最後の最後に大きな成長を見せてくれました。

今年は新たに南コースでの走り込みや600でのトレーニングといったメニューを取り入れました。これらの取り組みは特に効果的でした。タイトな南コースをNSF250で走ることで、ライディングの細かな課題が見えてきます。またひとクラス上のバイクに乗ることでも多くの気づきもあったと思います。今後もHRSでは積極的に新たなトレーニングメニューを取り入れ、ヨーロッパ勢に負けないような強いライダーを育成できればと思っています』

